

## 病院事業会計

### 1 決算の概要

#### (1) 経営成績（消費税を除く）

各病院の本年度の経営成績は次のとおりである。

(単位:千円)

科目	年度	加賀市民病院				山中温泉医療センター			
		26年度 (当初予定)	26年度	25年度	26年度-25年度	26年度 (当初予定)	26年度	25年度	26年度-25年度
経常収益 (a)		4,753,916	4,327,470	4,513,949	△ 186,479	305,730	305,055	231,296	73,759
経常費用 (b)		4,557,426	4,292,267	4,283,339	8,928	387,733	355,741	327,886	27,855
経常収支 (a)-(b)		196,490	35,203	230,610	△ 195,407	△ 82,003	△ 50,686	△ 96,590	45,904
特別利益 (c)		0	0	0	0	400	129	0	129
特別損失 (d)		1,774,000	1,774,922	2,019	1,772,903	1,597	515	0	515
当年度純損益 (a)-(b)+(c)-(d)		△ 1,577,510	△ 1,739,719	228,591	△ 1,968,310	△ 83,200	△ 51,072	△ 96,590	45,518

病院事業の経常収支は、15百万円の赤字で対前年比で悪化し、純損益では、退職引当金の計上等の会計処理の変更を行ったため17億91百万円の赤字となり、前年度比19億23百万円悪化した。

#### 加賀市民病院

本年度の純損失は17億40百万円であり、当初の損失見込額を上回り、前年度比19億68百万円の減益となった。この結果、累積欠損金は50億7百万円となり、前年度比61.8%増となった。

本年度の経常収益は43億27百万円で、当初の見込額を下回り、前年度比でも1億86百万円の減(4.1%)となった。これは、常勤医師1名の退職等による影響もあり、入院患者数・外来患者数がともに見込みより大幅に減少したためである。

経常費用は42億92百万円で、当初の見込額を下回ったが、前年度比9百万円の増(0.2%)となった。これは、平成26年度からの消費税率の改定により費用が増加したほか、新会計制度移行に伴い、減価償却費が増加したためである。

また、特別損失では、会計処理を変更して、退職引当金等の負債を計上したため、前年度に比べ17億72百万円増加している。

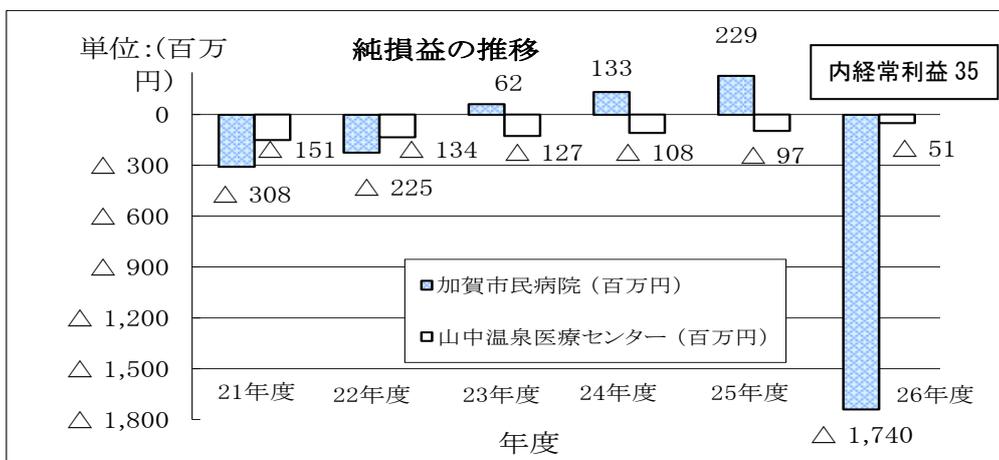
#### 山中温泉医療センター

山中温泉医療センターの本年度純損失は51百万円で、前年度と比べ損失額は46百万円減少した。経常収益は、ほぼ見込額どおりであるが、前年度と比較して74百万円増加した。これは、新会計制度の移行に伴う「長期前受金戻入」を計上したためである。

経常費用は3億55百万円で、当初の見込額を下回ったが、前年度比では減価償却費を中心に27百万円の増となった。

各病院の純損益

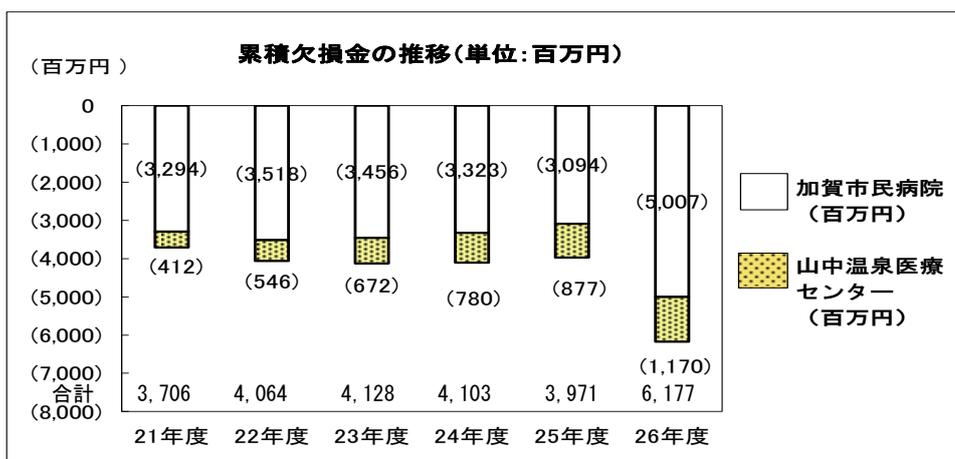
(単位：百万円)



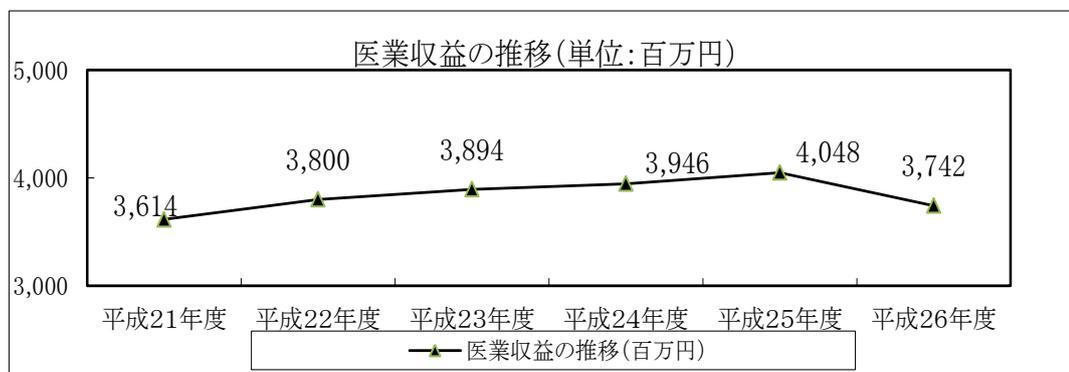
加賀市民病院は平成 23 年度から平成 25 年度までは黒字であったが、今年度は、経常収支でも 35 百万円の黒字にとどまり、会計処理の変更に伴い大幅な赤字となった。

各病院の累積欠損金の推移

\* ( ) は欠損金の額を意味する。



加賀市民病院の医業収益の推移



## (2) 資本的収入及び資本的支出（消費税を含む）

各病院の資本的収入・支出の予算額に対する決算額は次のとおりである。

### 【資本的収入】

(単位:千円)

病 院 事 業	現計予算額	決算額	決算額の予定額 に対する増減
加賀市民病院 資本的収入	243,063	241,338	△ 1,725
山中温泉医療センター 資本的収入	113,648	110,827	△ 2,821
統合新病院 資本的収入	1,695,424	1,241,173	△ 454,250
収 入 合 計	2,052,135	1,593,339	△ 458,796

### 【資本的支出】

\*「法」は、地方公営企業法をさす。(単位:千円)

病 院 事 業	現計予算額	決算額	翌年度繰越額 (法26条)	不 用 額
加賀市民病院 資本的支出	373,552	366,780	0	6,772
山中温泉医療センター 資本的支出	189,084	186,021	0	3,063
統合新病院 資本的支出	1,695,504	1,241,174	452,476	1,854
収 入 合 計	2,258,140	1,793,975	452,476	11,689

病院事業の資本的収入と資本的支出の決算額差額は2億円であるが、これは主に企業債償還金に対する一般会計負担分を除いた病院負担分である。

また、免震建物に係る大臣認定取得に不測の日程を要したため、統合新病院施設整備費4億52百万円を翌年度に繰り越した。

### (3) 財政状況

本年度末の財政状況は、次のとおりである。

(単位:千円)

科 目	加賀市民病院			山中温泉医療センター		
	27年3月末	26年3月末	増 減	27年3月末	26年3月末	増 減
(1) 資 産	6,103,688	6,769,566	△ 665,878	1,570,370	2,231,523	△ 661,153
固定資産	3,897,601	4,429,483	△ 531,882	1,425,937	1,989,305	△ 563,368
流動資産	2,206,087	2,285,652	△ 79,565	144,433	242,218	△ 97,785
繰延勘定	0	54,431	△ 54,431	0	0	-
(2) 負 債	5,054,303	351,948	4,702,355	794,727	22,840	771,887
固定負債	4,096,945	0	4,096,945	621,966	0	621,966
流動負債	776,257	351,948	424,309	123,385	22,840	100,545
繰延収益	181,101	0	181,101	49,376	0	49,376
(3) 資 本	1,049,385	6,417,618	△ 5,368,233	775,643	2,208,683	△ 1,433,040
自己資本金	6,055,905	6,057,253	△ 1,348	1,945,223	1,979,222	△ 33,999
借入資本金	0	3,120,583	△ 3,120,583	0	869,450	△ 869,450
剰余金	△ 5,006,520	△ 2,760,218	△ 2,246,302	△ 1,169,580	△ 639,989	△ 529,591
負債・資本合計	6,103,688	6,769,566	△ 665,878	1,570,370	2,231,523	△ 661,153

科 目	統合新病院			病院事業貸借対照表(全体)		
	27年3月末	26年3月末	増 減	27年3月末	26年3月末	増 減
(1) 資 産	3,728,666	1,648,748	2,079,918	11,402,724	10,649,837	752,887
固定資産	2,753,836	1,496,112	1,257,724	8,077,374	7,914,900	162,474
流動資産	974,830	136,086	838,744	3,325,350	2,663,956	661,394
繰延勘定	0	16,550	△ 16,550	0	70,981	△ 70,981
(2) 負 債	3,254,894	169,001	3,085,893	9,103,924	543,789	8,560,135
固定負債	1,959,400	0	1,959,400	6,678,311	0	6,678,311
流動負債	975,094	169,001	806,093	1,874,736	543,789	1,330,947
繰延収益	320,400	0	320,400	550,877		550,877
(3) 資 本	473,772	1,479,747	△ 1,005,975	2,298,800	10,106,048	△ 7,807,248
自己資本金	468,175	432,828	35,347	8,469,303	8,469,303	0
借入資本金	0	1,044,000	△ 1,044,000	0	5,034,033	△ 5,034,033
剰余金	5,597	2,919	2,678	△ 6,170,503	△ 3,397,288	△ 2,773,215
負債・資本合計	3,728,666	1,648,748	2,079,918	11,402,724	10,649,837	752,887

注) 千円単位で表示したため、事業貸借対照表の額と一致しない。

また、統合新病院の控除対象外消費税は、その償却額を加賀市民病院の繰延勘定償却に含めて計上している。

加賀市民病院では、高周波手術装置や関節鏡視下機械セット等の手術機械新設のほか、大動脈内バルーンポンプ、耳鼻科用ビデオスコープシステムや人工呼吸器の更新等に 51 百万円投資した。

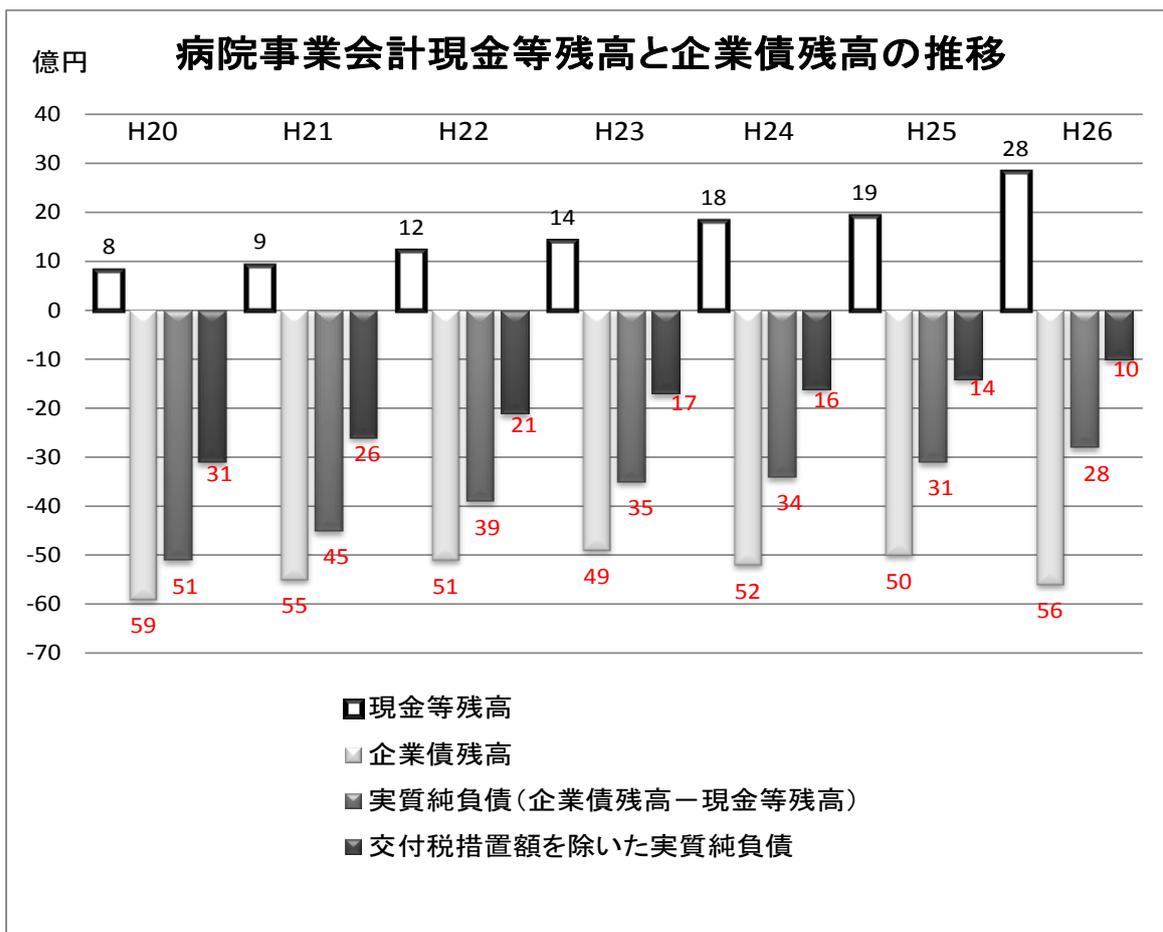
山中温泉医療センターでは、移動型 X 線テレビ装置や送信機械等の更新に 27 百万円投資した。しかし、新会計制度移行に伴って、固定資産取得の際の補助金等収入額見合分を減価償却することが義務付けられたことにより、固定資産総額では両病院共に減少している。

統合新病院では、建築設備工事等の建設仮勘定が増加し、固定資産が現年度比 12 億 58 百万円増加した。

借入資本金については、新会計制度移行に伴って、企業債を固定負債に記載することとなったため 0 円となり、その分固定負債が増加している。

## 2 審査意見

次に示す「現金等残高と企業債残高の推移」のとおり、平成 26 年度で、企業債残高は新病院建設に伴って増加したが、他方、一般会計からの出資金や建設未払金等により手許資金が増加したため、交付税措置と手持ち資金を考慮した「実質純負債」は見掛け上減少している。しかしながら、平成 27 年度では、統合新病院建設の支払いの本格化と共に、この純負債も 30 億円前後増加するものと思われる。



病院事業において、これまで「病院事業改革プラン」に基づき経営改善に向けた様々な取り組みが続けられ、平成 23 年度以降加賀市民病院は黒字化し、平成 24 年度からは山中温泉医療センターを含む病院事業全体でも黒字化したものの、平成 26 年度では市民病院の経常収益悪化などに加え、会計処理方法の変更に伴う巨額の特別損失の増大により、純損益は大幅に悪化し、17 億円を超える損失となった。

今回適用された会計基準は、会社会計としては古くから実施されているごく普通の方法を適用したに過ぎず、中央当局に促されて採用することになった措置であり、遅きに失した感を禁じ得ない。つまり、今回の適正な会計処理を経てようやく事業の真実に近い財政状態が明らか

になったとも言えよう。

病院事業の創業以来からの経営成果は、貸借対照表の資本の部の未処分利益（累積欠損金）として端的に表現されるが、先の33頁に見た通り当年度末で62億円の累積赤字に陥っている。それにも拘らず、先の表ではこれまで純負債は順調に減少傾向で推移してきたことになっており、これをどう統一的に理解すべきかが次に問われよう。

一般的には建設資金借入金の返済は減価償却費と利益を財源として行われるが、当事業のこれまでの赤字事態にあってその返済財源に不足を来すところであったが、他方で、返済資金の過半に対し一般会計から資本金の追加出資がおこなわれて資金不足が回避されたものと理解される。その事は、欠損金の累増と資本金の累増とがほぼ同時進行してきている事からも読み取れる。

別の側面から言えば、今回の統合新病院は老朽化に伴う更新投資の性格も有しており、もし累積欠損金がなければ、今回の新病院建設に当たり、60億円余りの自己資金が用意されていたことを意味する。健全な経営を行うことには、誠に重いものがあると言わざるを得ない。

再び本年の経営成績に立ち戻ると、加賀市民病院では常勤医師の不足状態などから本業の医業収益で見ても昨年度に比べ、3億円以上の減収となっており、病院の経営状況は非常に厳しい状況であると言わざるを得ない。

新病院を中核とする当市の新地域医療体制の発足を半年後に控え、医師の招へいや、山中医療センターのあり方等を含め、体制整備にやや遅れ感があることを危惧するところである。

言うまでもなく新病院は、当市にとり一大事業であり、関係者一丸となって鋭意取り組まれることを望んでやまない。

（注） 文中は原則として百万円単位または億円単位で表示し、単位未満は四捨五入した。

※ 平成26年度決算審査意見書の「原本」は、加賀市監査委員事務局で閲覧できます。